

五期俳句会第百八十回八月一日

今日は歳本さんがお休み。俳句をされてないので。おやつは適当に持ってこられたものを頂く。

華麗なる山鉾巡行古都の夏

塩田豆子

大暑だと聞きて暑さのいや増せり

浅香さとみ

金魚鉢透ける尾ひれや藻と揺れる

今井由紀子

青鷺のゆるりとあゆむ水際かな

松浦武子

水泳の敗者を包むバスタオル

久貝貞子

朝蟬や病院行きをせかしをり

浅香さとみ

極楽てふ水面は見えず蓮の花

今井由紀子

風に揺れドキドキ夏の観覧車

久貝貞子

濯ぎもの干すベランダの夏帽子

塩田豆子

水遊び子供の歓声しぶきとも

浅香さとみ

炎帝に背を向けくぐる茅の輪

今井由紀子

夕暮れの風が連れ来る祭囃子

塩田豆子

梅雨明けやさあ遊ぶぞと気合入れ

松浦武子

噴水を浴びてはしゃげる子等の声

塩田豆子

畳だけ新しくして新茶汲む

浅香さとみ

競い合う野外ドラムと油蟬

今井由紀子

蓮ひらくこころ安らぐ花なりき

松浦武子

大樹かげ楚々と寄り咲く露の草

塩田豆子

髪切って夏越の茅の輪くぐりけり

浅香さとみ

月見草地蔵道へと風さそふ

今井由紀子

空缶をはねて驚き草刈機

久貝貞子

もう百八十回になるし。しんどくなった感じもあり、意見の衝突もあって、難しい時期に来ている。私もこの作業にかなり負担を感じている。

まあ来月は開かれるけれど、一度話し合いを持ちたい。